

令和6年度 第1回中部森林管理局保護林管理委員会 議事概要

開催場所	中部森林管理局 第2会議室及びオンライン
開催日時	令和7年2月25日(火) 14:30~16:40
出席委員	<p>安藤 正規 (岐阜大学応用生物科学部 准教授)</p> <p>磯田 圭哉 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 遺伝資源部長)</p> <p>植木 達人 (信州大学 名誉教授)</p> <p>奥 敬一 (富山大学学術研究部 芸術文化学系 教授)</p> <p>竹中 千里 (名古屋大学 名誉教授)</p> <p>中村 公義 (日本野鳥の会長野支部 幹事)</p> <p>柳 真子 (専門学校職藝学院 准教授)</p> <p>由井 正隆 (長野県木材協同組合連合会 理事)</p> <p>※西條 好迪委員は欠席</p> <p style="text-align: right;">(五十音順)</p>
議題	<p>1. 令和6年度 保護林モニタリング調査結果の概要について</p> <p>2. 保護林内での行為の確認について(非公表)</p> <p>3. 令和7年度 保護林・緑の回廊モニタリング調査計画等について</p>
概要	<p>【委員からの主な意見】</p> <p>1. <u>令和6年度 保護林モニタリング調査結果の概要について</u></p> <p>(中央アルプス木曾駒ヶ岳森林生態系保護地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロットの 1ha 当たりの本数が前回調査と比べ減っている。枯損木が大量に発生していることが考えられる。 <p>(鉢盛山コメツガ等遺伝資源希少個体群保護林)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギャップが確認されているがギャップについては要注意で、特にササだらけのギャップの場合には天然更新はまずできない。ギャップを放置すると、天然更新が行われている場所までササが侵入して更新が停滞するおそれがある。ギャップが拡大しているのか、縮小しているかも重要な情報である。 <p>(寝覚ノ床サワラ遺伝資源希少個体群保護林)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾根筋のリョウブへのニホンジカ被害が報告されているが、これをどのようにとらえているか。ニホンジカ被害の程度によっては、対策を講じる必要がある。 <p>(恵那山生物群集保護林)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカによる食害がみられることから「要注意」となっており、対応を考えていく必要がある。

(皆沢アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林)

- ・松枯れの可能性が示唆されているが、確認のための調査等が必要ではないか。

(南木曾岳生物群集保護林)

- ・登山道へのオオバコの侵入が確認されているが、登山道が保護林内の植生に与える影響についても今後は留意していただきたい。

(各保護林共通)

- ・森林被害の加害獣をどのように特定したのか。カモシカとニホンジカの食痕を見分けるのは難しいと思われる。

2. 令和7年度 保護林・緑の回廊モニタリング調査計画について

- ・モニタリング調査の予算確保に努めていただきたい。本件については了承する。

－以 上－